

内浦公民館だより

令和4年7月8日発行

【発行】

内浦公民館

〒919-2351

高浜町山中 104-4-2

TEL.0770-76-2007

FAX.0770-76-2008

E-mail

Uchiura_c.c.@town.takahama.fukui.jp

Artfull うちうら

(2022) <vol.106>

内浦公民館講座

スマホの使い方教室Ⅱ ~2回シリーズ~

*QRコード
広報誌をカラーで
ご覧いただけます。



令和4年6月14日(火)と18日(土)
内浦公民館1階会議室で【スマホの使い方教室】を開催しました。講師の副田宗義さんは『難しい事よりも、スマホをさわって覚えるのが大切』という事で、便利なアプリと裏技を教えていただきました。携帯の種類によって操作が異なる所も、お互い共有しあって進めました。私たちの生活にますます身近なスマートフォン。これからも一緒に学んでいきましょう！

ハーブのある暮らし教室



令和4年6月26日(日)

内浦公民館1階会議室で【ハーブのある暮らし教室】を開催しました。講師は一瀬ひろみさん。今回は、化粧水と虫刺され用かゆみ止めジェルを作りました。好みの香りを選び、ハーブそれぞれが持つ特徴を聞いて仕上げました。ハーブの香りが会議室中に広がりとても癒される空間になりました。ご家庭でハーブを育てておられる方もいて、ハーブの利用方法等を、熱心に質問されていました。次回の開催も楽しみにされていました。

●開館時間 午前8時30分~午後10時 ●利用時間 午前9時~午後9時30分
※夜間利用が無い場合は午後5時00分で閉館いたします。

今回は、難波江区の、役員会にお伺いして、山本区長さん、植田副区長さん、松本農家組合長さんに話を聞かせていただきました。

職員：「簡易水道があると聞きましたが？」

話し手：「青葉山のきれいな湧水の出るところがあって、そこから水を引いて、大きなタンクに集めたのを各家に引いている。」「60年くらい前に、区の皆で資材を運んでセメントをひいて（専門の業者に指導してもらいながら）みんなで造った。」「その頃は、カルキとか浄化させて飲み水で使っていたけど、上水道が出来てからは、田畑や洗車、水やりとかで使えます。」

職員：「今もその水を使っておられるんですね。」

話し手：「使えるように冬の間には道の倒れた木や荒れたところを3月ごろに通れるように整備して、6月ごろにはタンクの掃除をしている。これは区の総仕事でみんなで行っている作業で、他に毎月当番があって2人で水源、タンク、管が壊れていないか、ごみが詰まっていないかなど状態を点検して、異常があればすぐ区の皆で直しています。」

職員：「60年以上前から皆さんで協力して今も続けておられるんですね。」

話し手：「水といえば、忘れられない恐ろしい思い出がある。昭和28年9月25日午後1時、台風13号で土砂が流れて、小屋や家が流されて大変やった。神社に避難して炊き出ししたり。川は鉄砲水が流れたりするので、今でも雨がよく降ると心配になる。」

職員：「大きな災害だったんですね。」

難波江は川が3本あり湧水もあって、水との関わりが大きいんだなと思いました。青葉山の恵みである水は生活に欠かせないものです。が、時には生活が破壊されることもあり自然の凄さを思い知らされますが、難波江の方々はずっと付き合っていて、今後も継続していけるように皆さんで、管理維持しておられるんですね。

最後に区長さんに、「難波江は沈む夕日は見れないけど、昇ってくる朝日が見えて、毎日表情が違う。」と教えていただきました。朝日が見えるところは高浜町内では内浦の一部の区だけかなと思いますが、難波江ならではの景色ですね。

季節や日によって朝日の色や光方が違うことにも驚きでした。

水、景色、これら環境は今後もずっと大切に守っていかないと

いけないですね。色々聞かせていただいてありがとうございました。





今回は 荒井裕樹 著『まとまらない 言葉を 生きる』です。

障害者文化論を研究する著者が「言葉が壊れている」との危機感を持ち、言葉の力を信じたい、という気持ちで書き綴ったエッセイです。障害者問題を中心に身近な事柄にまで、人権への想いを解りやすい言葉で綴られ、心に沁み込んできます。もっと早くこの本に出会っていたら、と思わされる1冊です。

「言葉が壊れる」というのは、若者の言葉遣いが乱れてきたとか古き良き日本語表現が忘れられていく、ことではないのだ。日々の生活の場や政治の世界でも、負の力に満ち満ちた言葉、人の心を削る言葉が増えて、言葉の役割が変わってしまったということなのだ。2010年代に入って以降、憎悪、侮蔑、暴力、差別に加担する言葉がやけに目につくようになった。少数民族、生活困窮者、障害者、性的少数者たちへの「理解のない発言」「心ない言葉」「憎悪表現」が溢れている。人の尊厳を傷つける言葉が生活圏に紛れ込んでいることに恐れやためらいの感覚が薄くなってきたということなのだ。

黙らせる圧力 職場や学校で、誰かの心が病むほどのハラスメントが起き、問題になると、被害者に対して「やめてって言えばよかったのに」とか「被害を訴えればよかったのに」との言葉が投げかけられたりする。それは形を変えた自己責任論。こういった言葉にどれほどの人々が黙らせられてきただろう。ハラスメントというのは、本当は会社とか組織の在り方が問われる「社会的な問題」なのだ。「社会的な問題」に個人が直面し、傷つけられているのは「個人の問題」ではない。言葉には「降り積もる」という性質がある。放たれた言葉は個人の中にも社会の中にも降り積もる。「誰かを黙らせる言葉」が降り積もっていけば、「生きづらさを抱えた人」たちの「助けて」との声も「黙らせる圧力」が高まっていくのだ。

のび太のママに一言いいたい 大好きな「ドラえもん」に苦手なキャラクターがいる。のび太のママと学校の先生だ。なぜ、ママは小学生の息子にあんなにお使いや留守番やらを命ずるのだろう。なぜ、「勉強しなさい」「宿題しなさい」と言うばかりで、わからないところを教えてやろうとしないのだろう。なぜ、怒るか怒らないかの基準がのび太の行動の是非ではなく、その時の自分の気分にあるのだろう。

どうして、先生は0点の答案をクラスの皆に晒すのだろう。どうして、点数がわるいと怒るのだろう。どうして、自分の教え方や教材の選び方が悪いのかもと、立ち止まって考えないのだろう。

でもきっとママは父親の希薄な野比家の中で多くのことを背負わされているのかもしれないし、先生は「権威」をまとって、子供にマウントをとらないと、先生としての立場を守れないと信じているのかもしれない。

少し考えて欲しい。のび太は、ある日突然机の中から出てきた機械仕掛けの青い猫と、「孫の孫」だと自称する少年の言い分を、すんなりと受け入れる柔らかな想像力の持ち主だ。彼の感受性と想像力を見逃す大人にはなりたくない。

「期待」はなぜ重いのか 「期待」というのは純粋な思いを託した言葉ではない。オリンピック選手に「期待しています」というと「あなた自身のためにプレーして欲しい」との意味にはならず、「結果を残して私たちに感動を与えて欲しい」のメッセージが含まれてしまう。日本で初めて精神科病院の完全開放を始めた「丘の上病院」。鍵と檻を無くし、患者の男女交際は自由、絵画、造形、スポーツ、演芸等も治療プログラムに組み込んだ。職員の苦労は並大抵ではなかったが、その取り組みを「希待(きたい)」という言葉で表わした。希待とは人間の善性や自己治癒力を信じ、可能性を無条件に信頼しようとする姿勢のこと、見返りを求めず相手のことを信じることなのだ。

「自己責任」の不気味さ この言葉が頻繁に使われだしたのは2004年の「イラク邦人人質事件」がきっかけだ。救出をするために多額の費用と労力が掛けられ、それへの批判が、危険地帯へ「自ら赴(おもむ)いた」当人たちへ向けられた。政府要人や政治家からもこの言葉が発せられ、一般の人々も加わり、壮絶なバッシングが起きた。自己責任論は多くの「社会の在り方を問う場面」に飛び火している。女性が性暴力に遭うのも、不安定な雇用形態で働くのを強られるのも、病気になるのも、貧困状態に陥るのも、老後の蓄えがないのも「自己責任」。これまでも生活の困難を訴える人に対し「怠け」「甘え」などの言葉でバッシングが行われてきたが、これに「自己責任論」が食い込んできた。そして「それはあなたの努力や能力の問題だ」と人を黙らせる言葉となりつつある。そしてその言葉は「他人の痛みへの想像力を削いでしまう」のだ。病気も貧困も被災も、いつ自分や大切な人に起きてもおかしくはないにも関わらず「自己責任」という言葉はそうした感覚を削いでしまうのだ。

～地域ニュース～



令和4年6月7日（火）

昨年度の全国高専デザコン大会で入賞した作品『日引活性化プロジェクト』を舞鶴高専建設システム工学科 山村 天さんが日引ふれあい広場で発表されました。内浦湾で漁獲量が減少している現状に着目し、海と森と里との循環考え今後も調査されるとの事です。「若い人が関心を持ってくれてうれしい」との感想もあり、これからも日引区の皆さんとの交流を通して、日引の活性化に繋がるといいですね。



令和4年6月24日（金）

ヒロセオートキャンプ場で安全祈願が行われました。今年からは4月1日から新型コロナウイルス感染症対策の為、サイト数を半分に減らしサイト間隔を空けて予約を受付されています。自然の中で楽しむことが出来るのでとても人気です。



～お知らせ～「世界の子どもたちにワクチンを届けよう」

- 高浜国際交流協会によるペットボトルキャップの回収を行っていて内浦公民館の事務所受付に、ペットボトルキャップ回収容器を置いています。ご協力おねがいします。



内浦公民館講座のお知らせ

詳細はチラシをご覧ください、内浦公民館 76-2007 までお問い合わせください(*^^*)

月	日	曜日	講座内容
7	16	土	草木染め体験教室（10:00～11:30） <定員 8名>
	19	火	元気あつぷ生き生き倶楽部（13:30～15:00）
	23	土	竹あかり作り教室（13:30～15:00） <定員 15名>
	26	火	らくらく運動教室（13:30～15:00）
8	2	火	あっとザ・サイエンス（10:00～11:00）
	9	火	みんなで考えよう～海のこと（10:00～11:00）
	19	金	習字教室（学年により開始時間が異なります）

新任のご挨拶



6月より内浦公民館でお世話になることになりました寺下千代美です。苗字で分かっていただけだと思いますが、生粋の内浦産まれの内浦育ちです。

前任地（郷土資料館）では22年間文化財の仕事をしていましたが、その間も内浦地区の皆様には大変お世話になりました。その時得た知識や経験を、今度は「内浦地区の魅力」を発信するために使っていきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

【主査 寺下千代美】